様式第１号（第１０条関係）

2024 年度業務実績報告書

提出日　2025 年　1 月　17 日

１．職名・氏名　教授・藤野秀則

２．学位　博士、専門分野　エネルギー科学、授与機関　京都大学　、授与年　2008

３．教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①　当科目名（単位数）　主たる配当年次等 情報管理論（2 単位　毎年開講）　3 年生　（15/15 コマ担当）
②　内容・ねらい（自由記述） 「情報の管理を通じた人と組織の管理」というコンセプトの理解を目的として、心理学や情報学、コミュニケーション科学といった学際的な視点から、情報と人や組織の行動・活動の関係を学ぶ。
③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫 対面講義のみで行った. また講義資料は講義終了後にクラスルームにアップロードする形として，毎回の講義ではきちんと自分でノートを取るように指示した．Google Classroom でコメントや質問の収集を行い、寄せられた質問への回答を翌週の講義の中で行う形式をとった。質問内容はなかなか興味深く、当方にとっても勉強となる指摘も寄せられることもあった。
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 経営情報論（2 単位　毎年開講）　2 年生　（15/15 コマ担当）
②　内容・ねらい（自由記述） 基本的な統計分析手法を統計分析ソフト「R」を用いて行う方法の解説と演習をおこなう。
③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 毎回パソコンを持参してもらっての演習形式の講義とし，毎回おおむね 60 分程度の解説をしたのち，課題を各自のパソコンで実践してもらう方式をとった．課題は翌週の講義の前日までに提出してもらい，こちらで個別に採点のうえフィードバックする方式をとった．
①　当科目名（単位数）　主たる配当年次等 演習 1（4 単位　毎年開講）　3 年生　（30/30 コマ担当）
②　内容・ねらい（自由記述） 情報管理論や安全管理論の基本的な考え方を習得するとともに、研究を進めていく上での基礎スキルを身につける。また、理工系も含めた関連する他分野に対するリテラシーを築く。
③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 前期の間は R を用いた統計分析手法の演習を行った．後期はある企業と連携して，企業内でのおこった労災への対策を 3 年生全員（3 名）で考えるという活動を行った. その過程で，安全管理の基本的な考え方や対策を考えるにあたってのデザイン論について学習してもらった．
①　当科目名（単位数）　主たる配当年次等 演習 2（4 単位　毎年開講）　4 年生　（30/30 コマ担当）

② 内容・ねらい（自由記述）
自分たち自身で PDCA を回すスキルを身に着けてもらうことを目的に、各自でテーマを立てて、自分たち自身で研究を組み立てていくという実践を行った。また、論文執筆を通じて論理的思考や論理的な文章とはどういうものかについての指導を行った。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）
３年生と合同でゼミを開きながら、３年生を４年生が指導する、という体制を作れるよう、できるだけ学生主体でのゼミ運営を行うように心がけた。ゼミ中は教員は意見を基本的に出さず、指導はゼミ後の時間がゼミ前の事前指導という形で行う形とした。卒業論文の執筆に関して、昨年度の演習１の際に使った LaTeX での執筆をしてもらった。

① 当科目名（単位数） 主たる配当年次等
外書講読１（2 単位 毎年開講） 2 年生 （15/15 コマ担当）

② 内容・ねらい（自由記述）
ある程度まとまった量の英文をよむスキルと、それをまとめて発表するスキルを身に着けてもらうことを目的に、グループで英語論文を読んでもらい、その内容をパワーポイントをつかってプレゼンテーションしてもらうというやり方を取った。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）
3 名ないし 4 名一組になってもらって，安全管理に関する古典的な論文を各組 1 本ずつ読み進め，最後に他の組のメンバに対して読んだ論文の内容をプレゼンテーションしてもらった．精訳することよりも全体の主張をつかんでもらうことを目的に、訳を発表するのではなく、内容をプレゼンテーションするように指導した．った。特に事故がなぜ起きたのか、について考えてもらうことを通じて、拙い組織管理について考えてもらえるように指導した。

① 当科目名（単位数） 主たる配当年次等
経営学総論 II（2 単位 毎年開講） 1 年生 （1/15 コマ担当）

② 内容・ねらい（自由記述）
「経営情報論」担当として，2 年生で行っている「経営情報論」の講義の基礎部分，具体的には統計分析スキルが社会人として求められていること，に関して紹介する．

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）
講義資料は事前配布をせず，あくまで自身でノートを取ってもらうように指示した．また数学的な内容に苦手意識を持っている学生が多いであろうことから，講義の中でできるだけ身近な事例を取り上げ，かつ数式的な説明を排除して説明を行った．

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
特別企画講座 E（サステイナブルな地域経済活性化と国内外観光産業論）
（2 単位 基本単年度開講）3 年生 （15/15 コマ担当）

② 内容・ねらい（自由記述）
サステイナビリティ、地域活性化、観光産業に関する融合科学的知見への理解を深めるとともに，学際的理論や知見を日本の地域社会問題に当てはめて分析し、課題解決のための思考力を養成する。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）
企業からの寄付講義として開講した．講義自体は博士号を持つコンサルタントが主体となっておこなった．講義は 2 コマ 1 セットとして，1 コマ目で解説を行い，2 コマで学生に課題について考えてもらって，学生同士で議論してもらい，そのうえで改めて自身の考えまとめてもらう，最後に数名を指名して考えを発表してもらって，コメントをするという形とした．課題はコンサルタントが考案したものだが，簡単に答えのでない議論が深まりやすい課題となっており，この課題設定の良さからか，学生たちも思いのほか積極的に各自の意見を述べ合っていた．

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
経営情報特論演習 I（2 単位 毎年） 大学院生

②　内容・ねらい（自由記述）
修士研究について、計画の精緻化と、具体的な調査の実施、さらに得られた結果の分析を行うといったような、研究活動を各自で進めてもらえるようにする

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）
今年度は 2 名の学生が対象であったが、1 名は社会人であったため（もう 1 人は私費留学生)、それぞれ個別に日程調整しながら対応した。

①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
専攻演習Ⅲ　経営情報特論演習 II（4 単位（本年度後期～来年度前期）毎年開講）大学院生

②　内容・ねらい（自由記述）
修士研究について、計画の精緻化と、具体的な調査の実施、さらに得られた結果の分析を行うといったような、研究活動を各自で進めてもらえるようにする

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）
受講生の研究テーマに従って，個別指導を行った。特に，研究を進めるにあたって必要となる Python のスキル獲得に向けた指導を行うとともに，本業や単位習得との兼ね合いから非常に多忙な学生に対して学習のペースメーカーとしてスケジュール管理を意識的に行った.

①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
看護マネジメント特論（看護福祉学研究科開講科目 4 単位　通年）大学院生　(8/30 担当)

②　内容・ねらい（自由記述）
ヒューマンファクターやヒューマンエラーについて､実際の事故事例を参考にしながら理解を深めてもらう

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）
2 名の社会人学生に対しての講義だった。単に一方的に解説していくのではなく、実際の医療現場の様子について逆に話を伺ったりしながら、双方向性をもたせた講義を行った。

(2)その他の教育活動

内容

恒例の京都大学下田研究室との合同ゼミを今年も開催した。京大生に臆することなく積極的に意見をだしていた。また京大生からもこちらの研究についての建設的な意見を多数もらうことができた。

経済学部のゼミナールコンテストについては、例年通りに開催することができた。ゼミコンに向けた研究ということで、学生のモチベーション向上には明らかにプラスの効果があるため、来年度以降も継続したい。

４．研究業績

(1)研究業績の公表

① 著書

【 本】

②学術論文（査読あり）

【 本】

③その他論文（査読なし）

【 本】

④ 学会発表等

・ 藤野 秀則, “安全情報プラットフォームの実現に向けたヒヤリハット聞き取り AI の構想”, ヒューマンインタフェースシンポジウム 2024 講演論文集, DVD, 2024 年 9 月.
・ 寺口 司, 藤野秀則, 後藤学, 彦野 賢, “リーダーシップはいつでも心理的安全性を高め得るのか： スコーピングレビューの試み”, 産業組織心理学会第 39 回大会発表論文集, 208-209, 2024 年 8 月
・ 藤野 秀則, 寺口 司, 後藤 学, 彦野 賢, “心理的安全性の向上に資するリーダーの具体的な行動”, 産業組織心理学会第 39 回大会発表論文集 210-211, 2024 年 8 月

【 3 件】

⑤ その他の公表実績

・ 藤野 秀則, ヒヤリハット等の報告を支援する AI インタビュアエージェント構想. 産業・組織心理学会第 153 回部門別研究会 （招待講演）

【 1 本】

(2)科研費等の競争的資金獲得実績

(3)特許等取得

(4)学会活動等

所属学会： ヒューマンインタフェース学会、産業・組織心理学会、日本人間工学会、医療の質・安全学会、医療安全心理・行動学会

- ヒューマンインタフェース学会安全管理支援技術専門研究委員会副委員長 (2017 年度～現在)
- ヒューマンインタフェース学会会誌編集委員会委員（2013 年度～現在）
- ヒューマンインタフェース学会電子広報委員会委員（2010 年度～現在）
- 日本人間工学会 安全人間工学委員会副委員長（2021 年度～現在）
- 2023 年度安全工学シンポジウム実行委員（2022~2023）
- ヒューマンインタフェース・シンポジウム 2024 実行委員（2023～2024）
- ヒューマンインタフェース・シンポジウム 2025 実行委員（2024～2025）

５．地域・社会貢献活動

- 福井県原子力安全専門委員会委員
- 公益財団法人　若狭湾エネルギー研究センター「新産業創出シーズ発掘事業」補助金審査委員
- 第３回北陸福井サステイナビリティサミットにてパネリストとして登壇し，今年度開講した寄付講義について講演.

６．大学運営への参画

(1)補職

(2)委員会・チーム活動

- 教育・研究委員会委員
- 経済学部１年生相談担当教員
- 経済学部情報教育作業部会委員

(3)学内行事への参加

(4)その他、自発的活動など